

表一2 天正年間後期『茶会記』に見るコイ茶(スイ茶)もてなしの事例(抜粋)

西暦(年)	年月日	亭主	客	茶席	特記事項	出典(頁)
1582	天正10年6月2日				織田信長本能寺にて自刃	他会記(364)
1583	天正11年5月24日	秀吉		坂本城内	宗易、初めて秀吉の茶頭を務める	他会記(390)
1585	天正13年7月11日				秀吉、関白となる	大事典(761)
	天正13年10月7日	秀吉	正親町天皇	宮中(関白就任返礼茶会)	宗易、利休居士を名乗り後見役務める	大事典(761)
1568	天正14年9月28日朝	山上宗二	豊臣秀長 松屋久政	大和郡山城曲音屋敷	…茶ハ極ム、如何ニモ如何ニモタフタフスクイ、四ツ五ツ入、湯一柄杓、スイ茶也、初口久政、次(秀長)也、…	松屋記(124)
	天正14年10月13日朝	中坊源吾	宗治 宗立 久政	三条敷 宗易形ノ茶ワン	御茶極ム、スイ茶ハ宗治・久政・宗立・源吾殿也、…ウス茶 別儀	松屋記(125)
	天正14年11月27日朝	宗逸	宗湛 宗傳	平三畳	茶碗今ヤキ(焼)＝楽焼	宗湛記(135)
	天正14年12月5日夜	啗庵	宗湛 宗傳	平三畳 今ヤキノ茶碗	先ウス茶有て、振舞ノ後コイ茶	宗湛記(137)
	天正14年12月8日昼	大和屋立左	宗湛 宗傳	フカ三畳、セト茶碗	先コイ茶、後二ウス茶	宗湛記(138)
	天正14年12月15日昼	啗庵			先コイ茶アリ、其後一スミ置テコイ茶アリ	宗湛記(142)
	天正14年12月19日朝	宗及	宗湛 宗傳	四畳半	フクサ衣ハ、コイ茶ノ時ハアサキ、ウス茶ニハネズミイロ	宗湛記(144)
	天正14年12月20日朝	天王寺屋宗云	宗湛 宗傳	平三畳、井戸茶碗	コイ茶、ウス茶	宗湛記(148)
	天正14年12月21日朝	草部屋道設	宗湛一人	フカ三畳、	コイ茶の時ハ天目ニ道具入テ、ウス茶ノ時ハセト茶碗	宗湛記(150)
	天正14年12月25日朝	庚因	宗湛一人	二畳半床無、セト茶碗	コイ茶	宗湛記(153)
	天正14年12月25日昼	具足屋立安	宗湛 宗傳	フカ三畳大目、セト茶碗	コイ茶	宗湛記(154)
1587	天正15年1月2日昼	道叱	立左 宗湛	四畳半	濃茶	宗湛記(157)
	天正15年1月3日	秀吉		大坂御城 大茶湯之事	御茶ノ時ニ、関白様御立ナガラ被成御説ニハ、多人数ナルホトニ、一服ヲ三人ツツニテノメヤ、サラバクジ取テ次第ヲ定ヨト被 仰出候ヘハ、内ヨリ長三寸、ヨコー一寸ホトノ板に名付書テ、小姓衆持参候、御前ニナゲ被出候ヲ、座中有之大名衆、コノフタ(札)ヲ奪イ取ニシテ、其後誰々ハ誰カ手前手前ニトサシヨラレテ、	宗湛記(160)
	天正15年1月12日朝	利休	宗湛 宗傳	フカ三畳、井戸茶碗	赤ハ雑ナルココロ也、黒ハ古キココロ也	宗湛記(176)
	天正15年1月18日晚	池田伊予		数寄屋	先ウス茶有テ、振舞ノ後コイ茶	宗湛記(181)
	天正15年1月21日朝	高石屋ト意	宗湛一人	フカ三畳、床ナシ	コイ茶	宗湛記(183)
	天正15年1月27日朝	虎屋紹意	宗及 宗云 宗湛	平三畳、ヤキ茶碗	コイ茶	宗湛記(185)
	天正15年1月28日昼	森田道味	宗湛 浄因 宗傳	三テウ、ヤキ碗	コイ茶	宗湛記(185)
	天正15年2月1日朝	菊屋宗可	宗及 宗云 宗湛	二畳シキ、ヤキ碗		宗湛記(187)
	天正15年2月2日朝	大文字屋榮清	宗及 宗湛	フカ三テウ、ヤキ茶碗	コイ茶、ウス茶	宗湛記(188)
	天正15年2月3日朝	了己	宗湛一人	平三テウ、セト茶碗	コイ茶	宗湛記(188)
	天正15年2月7日昼	道叱	宗湛一人	井戸茶碗	先ウス茶、其後コイ茶	宗湛記(191)
	天正15年2月8日朝	本住坊	宗湛一人	フカ三テウ、ヤキ茶碗	ウス茶	宗湛記(191)
	天正15年2月9日昼	大和屋立左	宗湛一人	ヤキ茶碗		宗湛記(192)
	天正15年2月11日朝	納屋宗薫	宗湛 宗傳	二階座敷二畳半床ナシ、セト茶碗	コイ茶	宗湛記(193)
	天正15年2月15日朝	又リヤ了勺	宗湛一人	平三畳、セト茶碗	コイ茶、ウス茶	宗湛記(200)
	天正15年3月6日昼	春世	宗湛 宗傳	フカ三畳、ヤキ茶碗	ウス茶	宗湛記(213)
	天正15年3月12日朝	道設	宗及 水野監物 宗湛	ヤキ茶碗		宗湛記(216)
	天正15年6月14日昼	利休	宗湛 宗室 宗仁	フカ三テウ、ヤキ茶碗		宗湛記(228)
	天正15年6月14日昼	紹安	宗湛 宗仁	二テウ半、ヤキ茶碗		宗湛記(228)
	天正15年9月13日				秀吉、大阪城より聚楽第へ移る	大事典(643)
	天正15年10月20日昼	小守休夢	宗湛一人	二テウ半、セト茶碗	コイ茶	宗湛記(239)
1588	天正16年1月(2月)	山上宗二			(茶湯者覚悟) 又十體一、世間ニ眞ノ茶ヲ濃茶ト云ハ非也、濃茶ノ建様ハ手前ニモ身モカハズ、茶ノカタマラヌヤウニ、イキノヌケヌヤウニ建ルカ習也一、濃茶呑ヤウ	宗二記(118)
1589	天正17年 月27日朝	桑山式部	紹斗 久好	一条半、ヤキ茶ワン	スイ茶	松屋記(171)
	天正17年9月24日朝	豊臣秀長	①宗立・宗方 ②宗有・久政 ③道可・紹斗 ④壽閑・関次郎 ⑤等旧・有俊・久好		スイ茶御手前ニ而御茶被下ル、座席はくじ引きで5グループに決める	松屋記(146、171)
1590	天正18年9月10日昼	利休	球首座 宗湛	聚楽第、書院 黒茶碗	上様御キライ候ホトニ、此分ニ仕候ト也	宗湛記(257)
	天正18年10月20日昼	利休	宗湛一人	聚楽第、二畳敷、黒茶碗	コイ茶	宗湛記(258)
	天正18年10月24日朝	宗及	宗湛一人	二テウ敷、黒茶碗		宗湛記(261)
	天正18年11月1日朝	鶴新右	宗湛一人	二テウ敷、黒茶碗	コイ茶	宗湛記(261)

前田秀一 茶湯者の覚悟「濃茶呑ヤウ(飲み様)」その一考察 表一2

	天正15年1月3日	秀吉		大坂御城 大茶湯之事	<p>御茶ノ時ニ、関白様御立ナガラ被成御説ニハ、多人数ナルホトニ、一服ヲ三人ツツニテノメヤ、サラバクジ取テ次第ヲ定ヨト被 仰出候ヘハ、内ヨリ長三寸、ヨコ一寸ホトノ板に名付書テ、小姓衆持参候、御前ニナゲ被出候ヲ、座中有之大名衆、コノフタ(札)ヲ奪イ取ニシテ、其後誰々ハ誰カ手前手前ニトサシヨラレテ、御茶キコシメサルル時、ソノツクシ(筑紫)ノ坊主(神屋宗湛)ニハ四十石(葉茶壺の大名物)ノ茶ヲ、一服トツクリトノマセヨト被 仰出候ホトニ、宗易手前ニ参、一服被下候也、井戸茶碗ナリ ヌルクタテラレ候、又新田肩衝(唐物肩衝茶入の大名物)手ニトリテミ</p>	宗湛記(160)
--	-----------	----	--	------------	---	----------

||

|

|